

1 題材名 自分だけの印鑑をつくらう

2 題材の目標

- 石で自分の印鑑をつくることに関心をもち、主体的に主題を生み出し、使いやすさや美しさを考えて印鑑づくりに取り組もうとする。(美術への関心・意欲・態度)
- 様々なマークや字体などを基に印面や持ち手のデザインを発想し、作品の構想をすることができる。(発想や構想の能力)
- 石のもつ特性を理解し、印刀ややすりなどを効果的に用いて、完成までの見通しをもちながら表現することができる。(創造的な技能)
- お互いの作品の造形的なよさや実用性、美しさなどを発見し、味わうことができる。(鑑賞の能力)

3 題材について

本題材では、高麗石という柔らかく加工のしやすい石材を用いて、自分だけの印鑑をつくる活動を行う。中学校学習指導要領美術の第2学年及び第3学年内容A表現(3)イでは、「材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現すること。」と示されている。本題材では、石を削る活動が主な表現方法となるため、削りすぎないように、自分の表現のイメージを明確にもつとともに、完成までの見通しをもちながらつくり上げていくことが必要となる。

これまで、第2学年で扱ってきた本題材は、生徒の意欲的な取組が見られ、印面や持ち手のデザインにおいても、様々なアイデアの広がりが見られた。しかし、石を削って持ち手の制作を行う際に立体感覚がもてず、自分のアイデアを三面図に描けない生徒や、三面図にアイデアスケッチができたものの、いざ石を削っていくとどこから削るべきなのかに迷うなど、完成への見通しがもてない生徒が多く見られた。これは、石という初めて扱う素材の特性の理解不足と、生徒のこれまでの生活体験や環境から造形感覚が十分に養われてなかったことが要因であると考えられる。

そこで、本題材では、まず、題材の導入段階で練習用の石を準備し、印刀で実際に削ってみる活動を取り入れる。このことで、生徒の活動への意欲を高めるとともに、石という素材についての不安感を少なくし、表現する際のおおまかなイメージをもたせることができる。次に、本制作に入る前段階として、油粘土を用いて制作過程をシミュレーションさせるウォーミングアップを取り入れる。ここでは、アイデアスケッチで自分が考えた持ち手のデザインを、実際に粘土を用いて立体にする活動と、石材と同じサイズの立体を、粘土ベラやカッター等を用いて削っていく活動を行う。これらの活動を行うことにより、生徒は、自分のアイデアを立体として具体的にイメージするとともに、完成までの見通しをもちながら本制作に取り組むことができると考える。

4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
石で自分の印鑑をつくることに関心をもち、主体的に主題を生み出し、使いやすさや美しさを考えて印鑑づくりに取り組もうとしている。	様々なマークや字体などを基に印面や持ち手のデザインを発想し、作品の構想をしている。	石のもつ特性を理解し、印刀ややすりなどを効果的に用いて、完成までの見通しをもちながら表現している。	お互いの作品の造形的なよさや実用性、美しさなどを発見し、味わっている。

5 指導計画(12時間取り扱い) ○は本時の活動

次	時	学習活動・内容	関	発	技	鑑
1	1	●題材について理解する ・様々な文字やマークのデザインを鑑賞し、作品制作に対する意欲をもつ。 ・朱文、白文などの種類や印鑑への理解を深め、自分なりのテーマをもつ。	◎			○

2	2	●作品の構想を練る ・自分の主題を基に作品の構想を練り，アイデアスケッチを描く。		◎		
3	4	●印面の部分を制作する ・印面のどの部分を削るかを理解し，慎重に制作する。	○	○	◎	
4	①	●持ち手の部分をつくるウォーミングアップを行う ・粘土を使って持ち手の部分をつくったり，ヘラやカッター等で削ってみたりする。			◎	
5	3	●持ち手の部分を制作する ・立体の形体をイメージし，やすりで持ち手の部分を削り出す。	○		◎	
6	1	●相互鑑賞会をする ・完成した作品を相互鑑賞し，よさや美しさを伝え合う。				◎

6 本時の学習

(1) 目標

持ち手の部分を粘土で制作することで，石を削る制作の順序を考え，完成までの見通しをもつことができる。

(2) 準備・資料

参考作品，粘土，粘土板，粘土ベラ（掻きだしベラ），カッター，糸，針金，ワークシート

(3) 展開

分	学習活動及び内容	指導上の留意点及び評価
5	1 本時の学習内容を確認する。 持ち手の部分を粘土で制作し，石を削る見通しをもてるようにしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に，粘土を使って持ち手の部分を制作することを伝えておく。 ・休み時間を活用して，机の上に粘土，粘土ベラ，粘土板，本時の進め方について書いたワークシートを置いておく。 ・活動の見通しがもてるように，本時の活動の流れを黒板に提示する。
10	2 自分がつくりたい持ち手のデザインの形を粘土でつくってみる。	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち手のデザインが決まっていない生徒には，現段階で考えている形を制作するように指示する。また，持ち手のデザイン例を見せて，その中から選んで同じ形でつくってみるように助言する。 ・粘土で自分のアイデア通りの形をつくり終わった生徒には，高麗石と同じサイズ（35mm×35mm×80mm）の直方体をつくっておくように指示する。その際，1個だけでなく2，3個つくっておくと失敗の際にすぐにやり直せると助言する。
15	3 篆刻で使う高麗石と同じサイズ（35mm×35mm×80mm）の直方体の粘土をつくり，自分のアイデア通りに，粘土ベラやカッター，糸，針金等を使って削って制作する。	<ul style="list-style-type: none"> ・石を削って制作する場合は，失敗するとやり直しができない。そのため，粘土を削ることに失敗してしまった場合は，直方体をつくり直して最初から制作するように指示する。 ・複雑な形をつくりたい生徒は，高麗石と同じサイズの粘土をいくつかつくっておくよう指示する。
		<p>評価</p> <p>持ち手の部分を粘土で制作することで，石を削る制作の順序を考え，完成までの見通しをもっている。 （観察，ワークシート）</p>
10	4 つくりあげた形を相互に鑑賞し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・特に自分と似た形はお互いに鑑賞し合い，批評し合うことで，石を削って持ち手をつくる際の見通しをもてるように助言する。
10	5 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を振り返り，よくできた点，課題として残った点を自己評価する。 ・粘土，粘土ベラ，粘土板，カッター等を元通りに整理するよう声かけをする。